

1号に続いて6月議会での小林議員の一般質問内容をご紹介します。

子どもの医療費助成制度を中学卒業まで引き上げて！

小林議員 市では、子どもの医療費に助成し、小学校3年生までのどのお子さんも、入院または通院のさい、定額の負担で医療をうけられるようになっていきます。

この制度をさらに拡大し、義務教育である中学校卒業まで、子育て中の家庭を支援する医療費助成制度が受けられるよう、対象年齢の引き上げを求めます。

國井保健福祉部長 対象年齢を未就学児から引き上げたのは昨年10月におこなったばかりであり、まずは、制度拡充の効果を検証することが必要です。県や他市町村の動向などを注視しながら、今後の検討課題といたします。



不安な放射線量、測定で監視を

小林議員 東日本大震災で被災されたすべての皆さんにお見舞いを申し上げ、福島原発事故の一刻も早い収束をねがうものです。市では幼稚園、保育園、小中学校で放射線量を測定しホームページ等で公表していますが、その数値は「心配する値ではない」と聞きました。しかし、「放射性物質はゴミが着いているのと同じで、水洗いすればかなり落ちる」といわれても、水のたまる場所は放射線量の数値が高いのではないかと、子どもの体に影響があるのではないかと不安です。なによりも、事故の収束がつかないことが不安を引き起こしています。放射線量測定器を市が市民に貸出しできないか、あるいは、市が出向いて測定できないでしょうか。幼稚園、保育園、小中学校での放射線量の測定について、水のはきだまりなど、測定場所を増やし、数値が少しでも不安のある場所については、近づかないように立ち入り禁止の措置をするべきだと思います。また、「心配のない数値」が安定して測定されても、測定を続けていただきたい。

梶山総務部長 放射線測定器は、現在、市が所有しているのは1台であり、概ね毎週約100施設の測定をしています。貸出しは難しいですが、例えばコミュニティなど地域活動をおこなう際に必要な場合に限り、職員が出向いて測定することは前向きに検討いたします。

放射線量測定は、保育園等園庭（校庭）の中心地点で地上高1cm、50cm、1mをそれぞれ複数回測定しての平均値を算出しており、現状では測定地点を増やすことは難しい。測定実施期間は、当面継続する考えです。

高速道路通行無料に 罹災証明証

今、市役所、支所がたいへん混み合っています。それは、高速道路通行無料にする罹災証明の発行を求める人が押し寄せているからです。市内では震災時、電気、水道が止まりましたので発行して

います。
印鑑を
お忘れ
なく。



2号に続いて6月議会での小林議員の一般質問内容をご紹介します。

ヨウ素剤の分散配置で万が一に備えて

小林議員 東海第2原発では、冷却するための電源となる非常用ディーゼル発電機3台のうち1台が、津波で冠水ポンプが使えなくなって作動しなくなり、大事故を引き起こす一歩手前の状況となりました。私は日本共産党議員団とともに、5月12日、日本原電に4月7日に申し入れた東日本大震災での被災状況の説明をうけました。この状況は福島第一原発と同じではないかとの問いに「非常用発電機が二台使えたので、福島とは違う」と、認めようとしませんが、原発は安全だという「安全神話」が、国を挙げて、教育の中でも進められてきましたが、そのことが、安全対策をなおざりにし、防災避難対策の遅れに大きく影響してきたと私は思います。

市では、万が一のときに服用して体内への影響を防ぐヨウ素剤を市内三カ所に保管していますが、「これで間に合うのか」と疑問を感じています。もっと身近なところ、たとえば、交流センターにヨウ素剤を保管することができないでしょうか。

梶山総務部長 安定ヨウ素剤は、県の災害対策本部の判断に基づき、医師の指示により服用するものです。県との取り決めにより市が管理保管し、管理責任者の薬剤師を選任し定期的に点検・入れ替え、万一の場合の扱い者の研修など、管理体制等に万全を期しています。管理上の観点から現状のとおりとします。

小林議員 日本共産党はこれまで、原発の危険性を訴えてまいりました。国や事業所は「とめる、ひやす、とじこめるの機能により原子力災害は起きない」としてきたことが、今回の事故で破たんしました。万が一の時のために、ヨウ素剤の配置増の体制づくりを、国や県に求めている。

日立市の学校給食、プールから 放射性物質検出せず

給食センター・保育園給食の食材について、市議会の教育福祉委員会で調査を求めていましたが、放射性物質は検出されませんでした。

学校プールは先生方など大人が清掃、水質検査では放射性物質を検出せず、プール授業が始まりました。



安定ヨウ素剤とは？

放射線被ばくによる影響に甲状腺がんがあり、乳幼児に発生確率が高くなります。新生児、乳幼児等には、安定ヨウ素剤服用を最優先にするべきです。

放射性ヨウ素が体内にはいる前の24時間以内、又ははいった直後に、安定ヨウ素剤を服用することにより、放射性ヨウ素の甲状腺への集積の90%以上を抑制することができます。放射性ヨウ素摂取後であっても、8時間以内に服用すれば、約40%の抑制効果が期待できます。この効果は、服用後、少なくとも1日は持続することが認められています。ただし、ヨウ素に対する過敏症を有する者が服用すると、アレルギー反応を引き起こします。

(原子力安全委員会原子力施設等防災専門部会資料より抜粋)